

講義科目名称： 保育実習指導 I B

授業コード：

英文科目名称： Instruction in Applied Childcare IB

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
黒澤 祐介, 戸松 玲子			
火5			
添付ファイル			

科目の概要	児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 保育実習 I Bの目的と意義</p> <p>第2回 乳児院・児童養護施設① 養護施設の役割と機能について</p> <p>第3回 乳児院・児童養護施設② 児童の入所背景と主な支援内容について</p> <p>第4回 知的障がい児施設① 障がい児施設の機能と役割について</p> <p>第5回 知的障害児施設② 施設利用の背景と主な支援内容について</p> <p>第6回 実習内容 直接援助と間接援助について</p> <p>第7回 実習日誌① 記入方法と留意事項について</p> <p>第8回 実習日誌② 目標と自己課題</p> <p>第9回 実習前の最終確認と各訪問担当教員による事前指導 実習前の最終確認と各訪問担当教員による事前指導</p> <p>第10回 事後指導① 実習活動の考察・反省と自己課題</p> <p>第11回 事後指導② 実習中のエピソードに基づいた子ども理解</p> <p>第12回 事後指導③ 実習評価に基づいた各訪問担当教員による事後指導</p> <p>第13回 実習中のエピソードに基づいた子ども理解について① 実習中のエピソードに基づいて子ども理解を行う</p> <p>第14回 実習中のエピソードに基づいた子ども理解について② 実習中のエピソードに基づいて子ども理解を行う</p> <p>第15回 まとめ 総括的な振り返り</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設における記録方法について学ぶ ・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える ・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す
授業の方法	講義形式で行うが、エピソードの検討などは適宜グループワークも取り入れる
成績評価の方法	レポート：50% 提出物：30% 授業への参加度：20%
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック
参考書	「考え、実践する施設実習」 浦田雅夫編、保育出版社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の復習は怠らない事 ・各自、実習先の沿革や方針等について理解しておくこと ・社会的養護の復習をしておくこと
履修上の留意事項	受験資格のないものは保育実習 I Bを辞退することもある
オフィスアワー	火曜日 3 限目
担当教員への連絡方法	y-kurosaw@osaka-aoyama.ac.jp

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Instruction in Applied Childcare III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
黒澤 祐介			
水1			
添付ファイル			

科目の概要	保育実習ⅠB（施設）での経験を元に、実際の施設現場における子どもへの自立支援に関する直接・間接援助について考えながら、保育者としての自己課題を見出す。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 保育実習Ⅲの意義と目的について。</p> <p>第2回 自己課題分析 保育実習ⅠBでの振り返りを元に、保育実習Ⅲにおける自己課題の再発見。</p> <p>第3回 実習計画 自己課題に基づいた自分なりの実習計画をたてる</p> <p>第4回 子ども理解① 保育実習ⅠBでの経験を元にした、子どもの成長の再発見について</p> <p>第5回 子ども理解② 行動特徴への理解と関わりについて</p> <p>第6回 子どもとの関わり 個別対応と集団生活について</p> <p>第7回 子どもへの援助 養護場面における教育観点と自立支援について</p> <p>第8回 自立支援計画① 子どもの現状理解と短期計画について</p> <p>第9回 自立支援計画② 子どもの意向に基づく長期計画について</p> <p>第10回 自立支援計画③ ファミリーソーシャルワークと自立支援計画について</p> <p>第11回 実践評価 養護実践後の評価の意義と今後の自己課題について</p> <p>第12回 実習手続き① 自己課題に基づく実習生調査表の作成</p> <p>第13回 実習手続き② 保育実習ⅠBに基づくオリエンテーション時の留意事項と心構えについて</p> <p>第14回 実習手続き③ 実習後の手続きと自己課題の整理について</p> <p>第15回 自己課題について 施設実習を振り返るとともに、養護実践上の自己課題を見出す</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実践課題を見出し、保育者としての使命と役割を自覚する。 ・子どもの現状理解に基づいた将来の自立支援計画をたてられるようになる。
授業の方法	講義形式で行うが、適宜グループディスカッションや発表等も行う。
成績評価の方法	レポート：50% 提出物：30% 授業への参加度：20%
教科書・テキスト	大阪青山大学子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後、復習は怠らない事 ・保育実習ⅠAの自己課題を整理しておくこと ・社会的養護、社会的養護内容の復習をしておくこと
履修上の留意事項	受験資格のないものは保育実習Ⅲを辞退することもある
オフィスアワー	火曜日3限目
担当教員への連絡方法	y-kurosawa@osaka-aoyama.ac.jp
その他	